

# 事業実施報告

事業名	親子ビギナーズキャンプⅠ・Ⅱ		
開催日	Ⅰ 令和5年6月24日(土)～令和5年6月25日(日) Ⅱ 令和5年7月8日(土)～令和5年7月9日(日)		
開催場所	国立岩手山青少年交流の家	参加人数	Ⅰ 28家族95名 Ⅱ 29家族100名
対象	キャンプ初心者の親子(小学校1年生から小学3年生までの子供を含む)		
関係機関名	Ⅰ sports camp COZY(コージー)	代表	及川 浩治 氏
	Ⅱ ツリークライミングクラブやまねっこ	代表	森 匡弘 氏

## 状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

### 〔事業の内容〕

キャンプ初心者の親子を対象に道具の貸出及び体験のサポートを行う「親子ビギナーズキャンプ」を実施した。子供の健やかな成長を育むとともに、体験継続の意欲を高めることを目的に、テント設営、アウトドアクッキング、焚き火体験、森のアクティビティといった自然体験活動を行える場を提供した。参加者がテニパークの豊かな自然に親しみ、普段の生活では得られない経験を楽しむ姿を見ることができた。

### 〔成果〕

#### ① キャンプ初心者が十分に体験活動ができる日程とサポートを提供できたこと

本事業は毎回応募多数の人気事業であるため、昨年度までは1事業3日程を同時実施し、できるだけ多くの家族を受け入れてきた。しかし一方で、少人数家族へのサポート、天候急変の対応に課題があったことを踏まえ、今年度は2回に分け、1回あたり30家族とし、移動や準備の時間を考慮したスケジュールとした。加えて、子供の面倒を見ながら活動もするといった家族に対しては重点的に学生ボランティアがサポートに入るようにした。その結果、事業運営、ボランティア・職員のサポート・指導等に対して、「満足」「やや満足」と答えた参加者の割合は98.3%と高く、参加者のニーズをとらえた事業運営であったと解する。

#### ② 天候の急変や荒天時に対応したプログラムを明示できたこと

昨年度は、天候の急変による予定変更と随時の実施判断が多かったことを踏まえ、実施判断基準の策定と参加者への事前連絡を行うとともに、荒天時対応をマニュアル化して職員で共有した。このことにより、荒天時も参加者の体験を保障できるプログラムを用意している旨を参加者に明示できた。豪雨や猛暑日の増加といった気候・気象の状況が年々厳しくなっていることから、本事業だけでなく、他の事業でも上記の取組を展開し、参加者の安心と安全を担保できるようにしたい。

#### ③ 森林資源の整備・利活用を図りながらアクティビティを提供できたこと

当施設にある森林資源と関連づけたアクティビティとして、スラックラインとツリークライミングを提供できた。このアクティビティを行うにあたっては、講師のツリークライミングクラブやまねっこ様に事前に木々の剪定や倒木危険診断等をしていただいたことにより、森林環境の整備を図ることができた。同様に、アドベンチャープログラムの使用に限られていた「冒険の森」をスラックライン会場としても活用したことで、当施設の森林資源の利活用の幅を広げることができた。

### 〔課題〕

#### ① どの参加者にも伝わるような周知方法の工夫

持ち物、服装については、Q&Aや参加決定通知で伝えていたものの、それでもなお軽装での参加や装備不足が見られた。イラスト、映像等で図示するといった工夫をしたい。

#### ② 館内の空調設備の整備

体育館テント泊は蒸し暑く寝苦しい様子が観察された。例年と比べ、高温多湿となる時期が早まっている状況であるため、空調設備の整備が必要とされる。

## 状況写真



協力してテントを設営



作ったカレーライスをいただきます！



焚き火体験 幻想的な空間です



親子でスラックライン



手放しできた！スラックライン



はじめてのツリークライミング